

「令和2年度 学生 FD CHAmmiT 学部提案書に基づく改善報告書」の掲載について

日本大学では、FD 活動に学生の声を反映させながら教育力の向上を目指すべく、平成 25 年度より、16 学部 87 学科、短期大学部 4 学科、通信教育部を対象に学生・教員・職員が一堂に会して学生 FD や本学の教育について理解を深め、気軽な雰囲気の中で語り合う「日本大学 学生 FD CHAmmiT (ちゃみっと)」を開催しております。全学規模のイベントとなっており、例年、各学部等から 200 名以上の参加者を得て開催しております。

令和2年度においては、コロナ禍の影響により、オンライン (Zoom) 開催となりました。新型コロナウイルスの影響でオンライン授業が主流になった現在の大学教育について、オンライン授業のメリット・デメリットやオンライン授業のミライのカタチを考え、学生・教員・職員の三者の意見をまとめたプロダクトを作成しました。また、各学部でこれからのオンライン授業を「どのようなことに生かせるのか？」や対面授業が可能になった時に「どこまでオンライン授業を扱っていくのか？」などの意見を「学部提案書」にまとめました。

この作成された「学部提案書」に基づいて、各学部において、学生からの「改善点について」、 「今後の要望について」の意見を学生・教員・職員の三者で協議した上で「改善報告書」を作成し、学修環境の改善を進めております。今後も芸術学部では、教育の質や改善について検討を重ね、より良い教育環境づくりに努めていきます。

(参考)

①「日本大学学生 FD CHAmmiT」って何？

<http://www.nihon-u.ac.jp/fd-center/fd/fd-chammit/>

②2018 年度は芸術学部で開催しました。

<http://www.nihon-u.ac.jp/fd-center/uploads/files/20190319142841.PDF>

以 上

令和2年度 学生FD CHAmiT 学部提案書に基づく改善報告書

【芸術学部】

①学生との協議の場について

実施日	実施内容
令和3年6月11日	CHAmiTに参加した学生3名（映画学科1名、音楽学科1名（学生スタッフ）、演劇学科1名）、職員（教務課）3名（課長、課長補佐（CHAmiT参加）、主任）、及び教員1名（全学FD委員会委員・芸術学部FD委員会副委員長）の計7名がZoomを使用して、学部提案書について1時間30分、現在の改善状況、問題点、改善案等について意見交換を行いました。

②改善点について

項目	実施済	検討中	実施不可	実施内容
(項目1) ・授業時に学生同士が情報・意見交換できる場（チャットや掲示板）を設ける（活用を促す） ・オンラインでも学生同士や学生と教員間でコミュニケーションを取りやすい授業にする		○		①令和2年度のオンライン授業導入に際し、教員向けに作成した「日本大学芸術学部オンライン（遠隔）授業実施の手引き」では、「学生の意見交換の機会を確保すること」を留意点として挙げています。同手引きの、主な実施方法の例では、Classroomを用いて「履修生同士の意見交換等を行う」としています。令和3年度の同手引きにも、同様の記載をし、引き続き、活用を促しています。 ②少人数の科目については、Zoomにより双方向型の授業が行われており、学生同士のグループワークやディスカッションも取り入れられています。 ③100人以上の履修者がいる講義科目においては、全ての授業ではありませんが、以下のような取り組みが行われています。 （1）授業のClassroom上にGoogle ドキュメントで作成した掲示板を設け、学生に自由に書き込めるよう促している。 （2）授業自体はオンデマンドで実施しているが、時間割に沿い、毎回Zoomによる質問の場を設け、学生同士が情報交換できる機会を設けている。 ④Zoomによるライブ（リアルタイム）授業を行っていない科目については、上記③の取組みなどの良い取り組みを学部内で共有し、各科目の担当教員に改善を促します。
(項目2) ・実習及び実技の方法 ・キャンパスでオンライン授業を受講する際に喋れる（マイクを使える）環境や待機場所を増やす		○		①実技・実習の方法については、学生からは、令和2年度に比べ、改善が図られた科目もあるとの話がありました。 ②学生からは同日にオンライン授業と対面授業があり、特に、実習科目がオンラインで行われている場合に、一時的にオンライン授業受講スペースが不足する時間帯があるとの話があり、確認したところ、土曜日3限目にキャンパス内でオンライン授業を受講する人数が多い時があることが分かりました。対応として、この時限については、オンライン授業受講スペースを、一時的に追加いたしました。 ③キャンパスキャンパス内でWifiが使える場所が十分に周知されておらず、オンライン授業を受講するスペースが不足していると学生に認識されている可能性があります。学生に情報をより分かりやすく、周知します。

令和2年度 学生FD CHAmmit 学部提案書に基づく改善報告書

項目	実施済	検討中	実施不可	実施内容
<p>(項目3)</p> <p>・提出された課題に対してフィードバックがあるとモチベーションが続く。</p>	○			<p>①令和2年度前期の授業評価アンケートの結果及び日本大学オンライン授業アンケートの結果を受け、学務委員会、FD委員会や教授会において、令和2年度後期科目では、極力フィードバックを行うよう改善を求めました。</p> <p>②その結果、令和2年度後期の授業評価アンケート結果では、「フィードバックがあった」との回答が前期の55.3%から64.2%に増加しており、改善が図られました。</p> <p>③令和3年度は、授業日程上、各学期の最終週をフィードバック・授業振り返り期間として位置付け、また、ICTを活用した授業方法の継続に際し、「学生へのフィードバック」が大きな課題となっていることを明記した書類を、教員への授業日程通知時に同封しました。</p> <p>④学生からは、次のような報告がありました。</p> <p>(1)今年度に入り、急激にフィードバックを行う科目が増えた。</p> <p>(2)少人数の科目については、Zoomにより双方向型の授業が行われており、適宜フィードバックが行われている。</p> <p>(3)100人以上の履修登録者がいる科目では、フィードバックが行われていない科目も多い。</p> <p>(4)外国語科目では、小テストの点数が毎回示されており、学生からは点数が示されるだけでも、モチベーションの維持に繋がる。必ずしも全ての科目でコメントとしてのフィードバックがなければならないということでは無いものと考えている。</p> <p>(5)フィードバックがあることで、自身の学習状況を振り返ることができ、次回の授業に生かすことができている。</p>
<p>(項目4)</p> <p>・対面授業でもオンラインとのハイブリッド(同時配信)を行うことで多面的な授業の活用とアーカイブ化を進める</p>	○			<p>①令和2年度のオンライン授業導入に際し、教員向けに作成した「日本大学芸術学部オンライン(遠隔)授業実施の手引き」では、「通信環境等の制約により、授業を受けることができなかった学生に対し、別途、動画や資料を提供できるよう」周知しています。令和3年度の同手引きにも、同様の記載をし、引き続き、同様の対応を求めています。</p> <p>②学生からは、次のような報告がありました。</p> <p>(1)アーカイブ化については、全ての授業で行われている訳ではない。</p> <p>(2)特に実技系の科目は、アーカイブ化されていれば、動作を繰り返し確認することができるため、学習効果が高い。</p> <p>③対面の実技科目であっても、動作など授業の一部分を動画で提示したほうが学習効果が高い科目については、動画を積極的に取り入れるよう、教員に対し周知します。</p>

令和2年度 学生FD CHAmmiT 学部提案書に基づく改善報告書

項目	実施済	検討中	実施不可	実施内容
(項目5) ・講義に用いる資料の著作権処理	○	○		<p>①令和2年度のオンライン授業導入に際し、教員向けに作成した「日本大学芸術学部オンライン（遠隔）授業実施の手引き」及び令和3年度の同手引きでは、「引用する」あるいは「著作権の保護期間が満了した著作物を利用する」ことを促しています。また、教員からは極力、自分自身が作成したものをオンライン授業の教材として使用しているとの報告がありました。</p> <p>②SARTRASの利用調査報告に備え、また、著作物の適切な使用を促進することを目的として、令和3年度の授業実施に際し「著作物利用報告書」の様式を作成し、全教員（非常勤を含む）に、適宜、記録するよう周知しました。</p> <p>③令和3年度のSD研修会では、著作権に関する講義を予定しており、職員の著作権に関する知識の向上を図り、教員からの著作権の問い合わせに、適切に対応できるよう努めています。</p> <p>④学生からは次のような提案がありました。</p> <p>（1）著作物であっても、例えば画像や動画などは、学生がインターネットで検索すれば出てくるので、必ずしも授業の中で教材として著作物自体を提示する必要はないのではないか。</p> <p>（2）授業内で得た情報の内、大学にとって不利益となるような情報を、むやみに学外に拡散しないよう、学生に呼び掛けていくことが大切なのではないか。</p> <p>⑤学生向けの令和2年度及び令和3年度の「授業受講の際の注意事項」では、授業内で配布された資料等を、著作権者の許可なく、共有しないよう注意を促しています。</p> <p>⑥今回の学生からの意見を鑑み、著作権及び授業内で得た情報の取扱いについて、注意を喚起すべく、定期的に、様々な学問分野の視点から著作権を取り上げ、学生向けに発信するなどの取り組みを、今後検討していきます。</p>

③今後の要望について

項目	実施済	検討中	実施不可	実施内容
(項目1) ・オンラインサークルを作る（孤独回避） ・接続可能な人が表示されてオンラインでサイゼみたいな雰囲気が作れるたら… ・LINEで繋がってないけど話したい人と話せる環境づくり ・交流会などの場をオンラインでも多く作る ・snsによってコミュニケーションは増やせそう		○		芸術学部版のCHAmmiT、あるいはワールドカフェ、（仮称）ARTMIX（アート・ミックス）をオンライン開催し、希望する全学科の学生・教職員が、より面白い芸術学部のあり方について、語りあう機会を令和3年度中に提供できるよう、FD委員会を中心に検討を行います。
(項目2) ・学科ガイダンスをオンラインで行い、授業のメカニズムを理解し、交友を広めるなどの機会とする	○			令和3年度のガイダンスは、対面で実施しました。ガイダンスの実施に際しては、情報を伝達するような主としてオンラインで代替可能な部分はオンラインで行い、できる限り学生同士が交友を広められるようにしました。

令和2年度 学生FD CHAmmit 学部提案書に基づく改善報告書

項目	実施済	検討中	実施不可	実施内容
(項目3) ・積極的に特別講師を呼び、新しく楽しい単発授業を作る		○		芸術学部では、600人の魅力ある非常勤講師の先生方をお招きし、オムニバス授業などを、積極的に提供しています。学生からの指摘を謙虚に受け止め、授業評価アンケートの結果を分析し、より満足度の高い授業が提供できるよう、改善の取組みを進めます。
(項目4) ・顔出しを強制する			○	①全科目での顔出しは、学生の通信量、通信機器・設備及び受講場所などを考慮し、強制しません。 ②一方、少人数で行われ会話が必要となる外国語の授業や、ディスカッション及びグループワークを取り入れた授業の場合は、カメラをオンにし、顔の表情が分かることで、コミュニケーションがより円滑に進み、教育的効果も高まるものと考えています。 ③学生向けの令和2年度及び令和3年度の「授業受講の際の注意事項」では、「教育効果を考慮し、教員から求めがあった場合は、カメラをオンにして受講すること」とし、「通信環境等の制約によりカメラをオンにできない場合は、都度教員に申し出ること」としています。教員からの求めがない場合は、カメラをオフにするよう明記しています。 ④教員に対しては、③のように対応するよう、学務委員会及び全教員への「授業実施に係る諸注意」に明示し、周知しています。
(項目5) ・オンデマンドで授業によっては理解度アップにつなげられる		○		コロナ禍後も、講義科目を中心に教育的効果を勘案し、フルオンデマンド授業の実施について検討を進めます。
(項目6) ・オンライン授業はテスト不正ができる環境なので、試験勉強自体が有効な学習となるように出題者が工夫		○		①芸術学部では、できる限り、継続的かつ多面的な成績評価を行うよう、コロナ禍の前から各教員への授業計画(シラバス)作成時に求めています。 ②対面時のように試験場で試験を受けるのではなく、オンラインにより、各自が自宅で試験を受ける場合に、「資料閲覧不可」として実施すると、「不正」が起こりやすいものと思います。 ③学生からは、「どんな資料でも閲覧してよい」という形で行えるような問いを設定し、一定の時間内に解答するという形での実施であれば、「不正」自体がないのではないかと案が提示されました。また、このような方法で実施されれば、試験自体への解答を考え、探す過程で新たな知識を身に付けることができ、学びの時間として試験という考え方もあるのではないかと、新たな視点が提示されました。 ④教員にとっても、学生の授業態度や積極性を測ることが、対面時と比べて難しく、受講生が多い科目では、授業の最後の方に課す、レポートの比重が大きくならざるを得ないとの話がありました。 ⑤FD委員会を中心に、学部内での良い取り組み(グッド・プラクティス)を共有する仕組みづくりを、検討いたします。
(項目7) ・先生方にもオンライン授業の展開方法の共有の場をより設けてほしい	○			①芸術学部では、オンライ授業の実施に先立ち、Goolge Classroom及びMeetの操作方法についての全体説明会を2回実施し、録画動画を提供しています。また、各学科では学務委員を中心に使い方の説明やサポートを行っています。 ②日本大学本部では、Zoomの使用方法に関する基本編から上級編まで4回のセミナーを行い、録画動画を提供しています。また、オンライン授業の質の向上を図るべく、オンライン授業に関するシンポジウムを7回実施し、事例の共有等を行い、過去4回分の録画動画を視聴することができます。

令和2年度 学生FD CHAmiT 学部提案書に基づく改善報告書

④改善や要望を受けて、芸術学部から学生へのメッセージ

CHAmiTに参加した皆さんには、芸術学部の改善に主体的かつ積極的に取り組んでいただき、御礼申し上げます。

大学は、専門的な知識・技能のほか、学生が主体的行動力を身に着けるための教育機関です。授業・サークル活動・日芸祭・卒博・各種の制作発表会などは、学生・教員・職員がそれぞれの立場で協力しながら作り上げていく「舞台」です。皆さんには、主体的行動力を身に着ける場として、大いに活用していただきたいと思います。

全授業科目に対する授業評価アンケートが年2回、日本大学学修満足度向上調査が、毎年1回（1年生・4年生は2回）あります。アンケートや調査への回答は、時間がかかるものですし、面倒だと感じることもあるかもしれませんが、皆さんが、これらのアンケートや調査に回答し、建設的な改善意見を提案していくことは、授業や大学に対して主体的に働きかけていくことに他なりません。芸術学部では、これらの回答をしっかりと確認し、改善の取り組みにつなげています。より魅力ある日芸を一緒に作り、発信していきましょう。